

多くの方が「最期は自宅で」と願いながら、実際には約1割しか叶っていません。この現実、私たちの社会が抱える大きな問題です。本上映会とお話し会を通じて「自分らしい最後」までどう生きるかを共に考え、ふとした時に自分や大切な人のこれからに想いを巡らせる。そんなきっかけになれば幸いです。

皆様とお会いできることを楽しみにしております。詳しくは、フライヤーをご覧ください。お申込みは、フライヤーのQRコードからお願いいたします、



**1**  
映画上映  
『ハッピー☆エンド』  
13:30～

誰もが迎える「人生の最期」  
痛い、苦しい、悲しい…そんなイメージが  
変わるかもしれない映画です。死生観と聞くと少し難しく感じるけれど、映画上映と  
萬田先生のお話を通して“自分はどう生きるか”を一緒にみつめてみませんか？

日時・7月4日(土)  
開場・13:00～17:00  
参加費・一般 2,000円  
学生 1,000円  
高校生以下 無料

人生のハッピー☆エンドなお話し、しませんか？



**2**  
お話し会  
講師：萬田緑平 先生  
15:20～

演題  
最期まで目一杯生きる

人間が生まれてきたら「おめでとう」と言い、人間が死に逝くときには「ありがとう」と言う。  
萬田先生の想いに触れながら、自分の中の想いに気づくひとときに。

会場・長野市東部文化ホール  
(長野市小島804-5)

有料で託児あり(10名まで)  
駐車場に限りがある為  
公共交通機関をご利用ください  
お問合せ：0269670520(出澤)  
メール dezawa@mirai-ss.org

電話、メール、下記QRコードから申し込み

主催・一般社団法人未来社会推進機構  
後援・長野県社会福祉協議会

共催・合同会社そえる手/子どもと風と結の会  
協賛・株式会社クワリテ / ボランティア団体 紡



## 「楽しい老い」とは？ 「穏やかな終末」とは？

### 「理想的な地域医療」を描いた、笑いと涙があふれる あったか〜い映画です！

群馬県の在宅医師・萬田緑平先生の診療所は、いつも笑い声が絶えません。

ジョークが好きな萬田先生の信条は、患者さん本人の気持ちを最優先する「患者ファースト」。

家族旅行を楽しんだり、愛するペットとともに暮らす。趣味のガーデニング、ゴルフ、お酒を満喫する。

本作で描かれるのは、最期まで自分らしく生きる、その輝き。前向きに歩きはじめる家族の姿です。

中学生、高校生など若い方にも、ぜひ観てほしい「生きる希望」を描いた文科省選定映画です。

がんを抱えながら亡くなった樹木希林さんの言葉が、明るく生き続ける極意を教えてくださいます。

監督は、『夢みる小学校』のオオタヴィン。ナレーションは、佐藤浩市と室井滋。エンディングテーマはウルフルズの名曲です！

“希望あふれる地域医療”を描いたハートフル・ドキュメンタリー映画です♪



樹木 希林

「在宅緩和ケア」で、  
自宅で自分らしい生活を送る  
がん患者のみなさん

ゴルフやお酒も  
OKです！



孫や子どもと  
我が家で過ごしたい！



愛するペットと  
一緒にいたい！



本作ナレーター  
佐藤 浩市

緩和ケアを受けることで、がんの患者さんたちが  
お酒を飲んだり、ゴルフをしながら自分の人生を満喫できる、  
素晴らしいなと思いましたね。  
がんで悩む現代人には勇気が出る映画です。

本日も  
豪華で  
往診中！

### ハッピー☆エンドは、こんな映画です！



本作ナレーター  
室井 滋

緩和ケアの実態、私もこの映画で初めて知りました。  
がんになっても痛くないなんてすごいですよね。  
患者さんたちの元気な笑顔にびっくりしました。  
見ると不思議な希望が湧いてくる映画です。

観客は大声で笑う、自分や自分の家族と重ねて笑う、うなずきながら泣く。  
画面に映るのは私、私の夫、私の妻、私の子ども、私の孫たちなんだ。  
緩和ケアは生きる人の生きるを支え抜くケアだと伝わる。  
この映画を観た人は「しっかり生きよう」と元気になるのだ。

高口 光子 (理学療法士、介護福祉士)

予告編  
ご覧ください



## 「ハッピー☆エンド」上映会 & お話会



### 萬田緑平先生プロフィール

萬田先生は、在宅での緩和ケアに携わりながら、これまでに2,000人以上の看取りに関わってきました。現在は群馬県前橋市にて緩和ケア萬田診療所の院長を務めながら、「最後まで目いっぱい生きる」をテーマに、全国各地で講演活動を行っています。著書に『穏やかな死に医療はいらない』、新刊『棺桶まで歩こう』などがあり、その想いは多くの人の心に届いています。

### 主催者からのメッセージ

多くの人が「最期は自宅で」と願いながら、実際には約1割しか叶っていません。この現実、私たちの社会が抱える大きな課題です。本上映会とお話会を通して、「自分らしい最期」までどう生きるかを共に考え、ふとした時に、自分や大切な人のこれからに想いを巡らせる。そんなきっかけになれば幸いです。皆様とお会いできることを楽しみにしております。